

## 区長、認める！！

### 「新庁舎財源捻出のための民間業者呼び寄せの手段」であると

50億円「新ホール」の建設白紙撤回と「現庁舎地の活用及び周辺整備計画」の再検討を求める陳情が2月26日、総務委員会で審議されました。

陳情の内容は、

- ①区民が利用できる唯一の大規模集会施設「公会堂」を廃止させず、区民のための公会堂建設を
- ②高額の利用料で区民が使えない
- ③劇場は、すでに西に「芸術劇場」東に「あうるすぽっと」があり、多額の区費を投じてこれ以上の豪華劇場建設は必要ない
- ④当初17億円の計画が50億円の「新ホール」に突如変わり、区民の要望ではない「新庁舎財源捻出のための民間業者呼び寄せの手段」にされる。同時にこの「新ホール」建設を含む「現庁舎地の活用及び周辺整備」計画は114億円（区民一人当たり42万円）もの巨額な区財政の支出である。

今、国保料が高すぎて払えない人、「保育園入園希望待機者が598人（12月1日現在）」、「不況の中で融資を受けられないで苦しむ業者の増加」「特別養護老人ホームの待機者が647人（9月30日現在）」という区民の深刻な生活実態の中で、住民の福祉を守る役割をもつ地方自治体である「豊島区」は、住民の福祉に財政を使うべきである。

以上の点から「新ホール」の撤回と「現庁舎の活用及び周辺整備」計画の抜本的再検討を求めたものです。

4時間にわたる審議の中で共産党の質問によって、

- ①区長が「新庁舎財源捻出のための民間業者呼び寄せの手段」であることを認めたこと、
- ②50億円の「新ホール」が50億で収まるとは限らないこと、
- ③「新ホール」使用料はまだ想定されていないが、隣の北区(北とぴあ)の例では一回約70万であり「新ホール」はおそらく100万を超えると思われること、
- ④区長は「福祉に力を入れている」と言うが、具体的に何も示せなかったことが明らかにされました。

自民、公明、自治みらいは「街のにぎわい、活性化につながる、街が変わる」などと主張し、多くの区民の願いに背をむける姿勢でした。陳情については、共産党、みんなの党は採択を主張しましたが、自民党、公明党、自治みらいの不採択過半数によって否決されました。傍聴された方々は口々に「残念な結果であるがこれで終わったわけではない。まだまだ区民の前に明らかにしなければならないことが山積している。これからも区民の声を強めていこう」と語っていました。